

**特定非営利活動法人サロン 2002**

**2017 年度 活動報告書**



# はじめに

サロン 2002 が特定非営利活動法人として再出発したのは 2014 年 5 月のこと。まだ 4 年目の新しい NPO 法人です。しかし前身の研究グループ（「社・心グループ」と呼んでいました）まで含めると 20 年以上の歴史があり、この分野の老舗の一つと言えるでしょう。

私たちが「サロン 2002」の名称を用いるようになったのは 1997 年 4 月です。そこから数えて 20 年目となる 2017 年、公開シンポジウムではサロンがあゆんだ 20 年を取り上げました。「Before2002、After2020 スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を目指して」と題して、2002FIFA ワールドカップ韓国・日本大会の Before から、2020 東京オリンピック・パラリンピックの After までをさまざまな視点で語り合いました。サロンらしい、言いっぱなしの大放談ではありましたが、多岐にわたる内容はたいへん興味深いものでした。そして何と云っても、同窓会ふうに集まった懐かしい方と若い“同志”が、ともに「スポーツを通しての“ゆたかなくらし”」をネタにわいわい語り合えたのがよかったですね。

サロンの財産は“人”であり、その人々が共有する“志”であるということ、改めて感じました。

“志”を掲げ、情報発信していくための「広報誌」を発刊できたのは、2017 年度の大きな成果でした。これまでも公開シンポジウムの内容は「報告書」にまとめ、関係者に配布・頒布いたしておりましたが、今年度は身内や関係者以外の方々にも気軽に手に取ってもらえるよう、内容・体裁の両面で大幅にテコ入れしました。こういうものをつくるとき、異業種ネットワーク・サロン 2002 の強みが発揮されます。メンバーがそれぞれの得意分野を生かしながら一つのものをつくり上げていくプロセスはとても楽しいものでした。広報誌『遊 ASOBI』の名称は、＜「生きる」だけならなくてもよいが、「よりよく生きる」には欠かせない文化であるスポーツやアートの原点にある「あそび」を、ゆらゆらとただようイメージで表したものです＞（配布文書より）。

このタイトルに、私たちの“志”の一つのかたちが見えてきます。

“あそび”を粗末に扱ってはいけません。ここにすべてがあるようにさえ思います。「適当に」ではありません。「あそぶ」の前につける形容詞は「自然に」「ちゃんと」「本気で」「徹底的に」がふさわしいでしょう。「スポーツを通しての“ゆたかなくらし”」とは、非日常の世界である“あそび”が、まるで日常の一部であるかのように近くにあるというイメージです。日常と非日常の間を、ときにはスパッと、ときにはゆらゆらとただよいながら切り替える生き方や、それを可能にする環境づくりが、私たちが目指すべきことであり、これまで目指してきたことなのだと思えます。2 回目となった「U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ」もこのような思いで続けていますし、オリンピック教育も、ちゃんと“あそぶ”ための教育プログラムだと考えています。

“志”を形にしていくには財源の確保や事務局の強化が不可欠です。広報誌『遊 ASOBI』も U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップも、toto 助成を背景に計画・実施されましたが、前者について 2017 年度は助成を受けることができませんでした。対象経費が基準額を下回ったためです。公的助成を受けることの社会的責任を改めて自覚し、事務局体制を強化しながら、私たちの NPO をしっかりと運営していきたいと思えます。

NPO 法人化してちょうど 4 年。FIFA ワールドカップの年になりました。

これからもサロン 2002 は地道に、そして大きく羽ばたいてまいります。

2017 年度の取り組みをまとめましたのでご一読ください。

2018（平成 30）年 6 月  
特定非営利活動法人サロン 2002  
理事長 中塚義実

# 目 次

はじめに.....	1
NPO法人サロン2002理事長 中塚義実	
目 次.....	2
【調査研究・情報提供・普及啓蒙事業】	
1. 月例会活動報告.....	3
2. 公開シンポジウム.....	11
3. 広報紙「游」の作成.....	12
【支援・受託・派遣事業】	
4. 「DUO リーグ」事務局業務受託.....	13
【イベント開催事業】	
5. U-18 リーグチャンピオンズカップ 2018.....	14
6. クーベルタン・嘉納ユースフォーラム 2017.....	17
7. アート&リサイクルプロジェクト.....	20
【国際交流事業】	
8. Sport for Tomorrow 事業への参加.....	21
【人的ネットワーク管理運営事業】	
9. 事務局報告.....	22
この一年を振り返って.....	23
NPO 法人サロン 2002 副理事長 笹原 勉	

# 1. 月例会活動報告

## 《2017年4月（通算248回）月例会報告》

【日 時】2017年4月18日（火）19:00～21:00（終了後は「景宜軒」～0:00 ごろ）

【会 場】筑波大学附属高校 3F 会議室（〒112-0012 東京都文京区大塚 1-9-1）

【テーマ】マーケティングの観点から見た2019年ラグビーワールドカップ組み合わせ試案

【演 者】井上俊也（大妻女子大学教授）

【参加者（会員・メンバー）10名】安藤裕一（㈱GMSS ヒューマンラボ）、井上俊也（大妻女子大学）、浦和俊介（立川市富士見町7-1-205）、奥崎覚（Qoly）、嶋崎雅規（国際武道大学）、徳田仁（㈱セリエ）、名方幸彦（文京教育トラスト）、中塚義実（筑波大学附属高校）、守屋俊英（世田谷区サッカー協会）、守屋佐栄（世田谷区生涯大学事務局）、

【参加者（未会員）11名】長谷川仁（ヤマハ発動機㈱）、伊藤秀志・小柳津和彦（袋井市企画政策課）、長岡茂（Espoir Sport㈱）、保科たまき（徳田氏友人）、大谷隆之（徳田氏友人／古河インフォメーションテクノロジー㈱）、片上千恵（帝京大学／メディアトレーナー）、香西武彦（Honda）、北島温子（中央大学高等学校）、玉澤正徳（笹川スポーツ財団）、川名紀義（㈱ピージー）

【報告書作成者】浦和俊介

【概要】

2019年に日本で行われるラグビーワールドカップの組み合わせ、ならびに日程についてマーケティングの観点から試案を提言(表)し、この背景を解説。ラグビーワールドカップは試合日程や試合会場など、実力と人気を併せ持つ有力国8か国（ニュージーランド、豪州、南アフリカ、イングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランド、フランス）中心に運営、これら8か国のファンを重視した大会運営であった。初めて有力国以外で開催される2019年日本大会においても、「有力国を優先しつつ、以下に示すように、より広いマーケティング的な観点から開催国として入場料収入だけではなく交通・観光・宿泊の便も考慮し、国内外のファンにとって利便性のある組み合わせを考える必要があるであろう。」と提言がなされた。

## 《2017年5月（通算249回）月例会報告》

【日 時】2017年5月25日（木）19:00～20:30（終了後は「景宜軒」～23:00 ごろ）

【会 場】筑波大学附属高校 3F 会議室（〒112-0012 東京都文京区大塚 1-9-1）

【テーマ】NPO サロンの事業を考える③－月例会

【演 者】中塚義実（筑波大学附属高校／NPO サロン理事長）

【参加者（会員・メンバー）5名】川名紀義（㈱ピージー）、岸卓巨（日本スポーツ振興センター）、笹原勉（日揮㈱）、嶋崎雅規（国際武道大学）、中塚義実（筑波大学附属高校）

【2次会からの参加者】安藤裕一、小池靖、竹中茂雄

【報告書作成者】中塚義実

【概要】

1997年に「サロン2002」を名乗って以降、ほぼ毎月開かれてきた月例会はサロン2002の中核事業である。20年の年月を刻む月例会テーマを経時的に追うことより、日本のサッカーならびにスポーツ界の近代史を知ることができる。またサロン2002が任意のネットワークからNPO法人に至るまでのプロセスは、社会の変化と人々の意識の変化を考える手がかりとなり得る。

## I. サロン 2002 発足以前

演者は大学院生だった 1984 年に、日本サッカー協会（JFA）科学研究委員会の開催する「サッカー研究会」に参加し始めた。この参加者の中で社会学や心理学に関心をもつ同志が研究班「社・心グループ」を発足させ、不定期に勉強会を開催するようになった。

1992 年から、三菱養和会（単鴨）で「スポーツいんろう」という名の勉強会がはじまった。三菱養和会単鴨スポーツセンター長となった横山氏（当事、元代表監督）が、「文化としてのスポーツ」の重要性を意識し、サッカー研究会のメンバーに声をかけ「スポーツとは何か」などをテーマとして毎月勉強会が開催された。（「スポーツいんろう」は 6 年間、計 71 回開催された後閉会となった）

同じ時期に、東京都高体連サッカー専門部の喜熨斗勝史氏の音頭で任意の研究会が始まった。この研究会は 1995 年度になると、喜熨斗氏に、小澤治夫氏（当時筑波大附属駒場中高）、演者を加えた 3 名が発起人となり「東京都高体連サッカー科学研究会」に発展した。同研究会はユースリーグが全国へ展開する上で欠かせない意見交換の場となった。

## II. サロン 2002 の誕生と月例会

「社・心グループ」のテーマは回を重ねるごとに多彩となり、多様な職種の人が参加するという変化がみられた。このため「社・心グループ」という勉強会組織から次への展開が必然的に求められた。1997 年 4 月に「サロン 2002」第 1 回月例会が開催された。1998 年にはサロン 2002 の法人化の検討が活発になり、1999 年 1 月の月例会では、松下徹氏（「NPO 法について」）、中塚氏（「サロン 2002 のこれまでとこれから」）が報告し、「法人化」「会員制」「月例会」について討論がなされたことを皮切りに意見交換会などで議論が重ねられた。2000 年 3 月の月例会では、演者が「サロン 2002Ver2000～2001」と題して報告、設立宣言と規約案が発表され、2000 年 4 月に「サロン 2002」の規約が確定した。

2013 年度には法人化プロジェクトが設置され、月例会で取り上げられたこともあり、理事会が原案を作成した上で議論が重ねられ、2014 年 5 月 31 日の総会で NPO 法人としてサロン 2002 が設立された。月例会で扱われているテーマにはサッカー／スポーツに限らず、幅広い内容が取り上げられてきている。

### 《2017 年 6 月（通算 250 回）月例会は総会終了後、意見交換会として実施》

#### 《2017 年 7 月（通算 251 回）月例会報告》

【日 時】2017 年 7 月 24 日(月) 18:30 開始

【会 場】フットボールサロン 4-4-2(東京都墨田区)

【テーマ】お宝映像上映会-いわゆる「ドーハの悲劇」と「ジョホールバルの歓喜」

【お宝映像】

1)1994FIFA ワールドカップ・アメリカ アジア最終予選

1993 年 10 月 28 日 於アル・アリスタジアム(ドーハ=カタール)

日本 vs イラク(いわゆる「ドーハの悲劇」)

2)1998FIFA ワールドカップ・フランス アジア第 3 代表決定戦

1997 年 11 月 16 日 於ラーキン・スタジアム(ジョホールバル=マレーシア)

日本 vs イラン(いわゆる「ジョホールバルの歓喜」) (時間の都合上延長戦のみ)

【参加者(会員・メンバー)9 名】川名紀義(株式会社ピージー)、岸卓巨(日本スポーツ振興センター)、北原由(都立武蔵高校)、小池靖(在さいたま市/サッカースポーツ少年団指導者)、齋藤宣彰、徳田仁((株)セリエ)、中塚義実(筑波大学附属高校)、守屋俊秀(世田谷サッカー協会)、吉原尊男

【参加者(未会員)6名】岸清馨、守屋佐栄、岡怜美(早稲田大学)、佐々木瞭(慶応大学)、丸山幸子(ジョホールバルの歓喜 20周年記念事業委員会)、国島栄市(ビバ!サッカー研究会)

【2次会からの参加】今廣佳郎

【報告書作成者】参加者らによるコメント

【概要】

日本サッカーの歴史を振り返ると、ちょっと前まではワールドカップは夢のまた夢の世界であった。Jリーグというプロサッカーが出来て迎えた1994年アメリカ大会の予選では、日本中が盛り上がる中、アジア最終予選がカタールで開かれた。(日本、韓国、北朝鮮、イラン、イラク、サウジアラビアによる総当たり戦) 1本目の映像は日本の最終戦であった vs イラクの試合を開始から終了まで上映。各自で調達したドリンクとおつまみを囲み、思い出話に花を咲かせながらもみな試合に集中。日本の選手はよく動くし、一人ひとりが際立った個性を持っているがイラクの選手もうまい。そして最後はいわゆる「ドーハの悲劇」のシーンで改めて感激!

ここで参加者ひとりずつ自己紹介が行われ、それぞれの「ドーハの悲劇」と「ジョホールバルの歓喜」について語られた。

続いて2本目となる日本 vs イラン(いわゆる「ジョホールバルの歓喜」)延長戦上映開始。岡野選手が何度か外し、そして最後にその岡野が決めた...日本のサッカーファンが歓喜した瞬間を皆で思い出した。

2本の映像終了後は歓談、夏の夜を楽しく過ごした。

## 《2017年8月(通算252回)月例会は公開シンポジウムとして実施》

### 《2017年9月(通算253回)月例会報告》

【日時】2017年9月15日(水)19:00~21:10(終了後は「景宜軒」~23:30)

【会場】筑波大学附属高等学校 3F 会議室

【テーマ】エストニアへ行ってきました!

—第11回国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム報告

【演者】藤原亮治(筑波大学附属坂戸高校 教諭)

【コーディネーター】中塚義実(筑波大学附属高校/NPO法人サロン2002 理事長)

【参加者(会員・メンバー)9名】安藤裕一(株GMSS ヒューマンラボ)、川名紀義(株ピージー)、岸卓巨(日本スポーツ振興センター)、嶋崎雅規(国際武道大学)、竹中茂雄(東海道品川宿FC)、茅野英一(帝京大学)、中塚義実(筑波大学附属高校)、守屋俊英(世田谷区サッカー協会)、吉原尊男

【参加者(未会員)9名】内田奈津子(筑波大附属高・保護者)、大林太朗(筑波大学)、斎藤芳(桜丘高校)、塩田伸隆(都立松原高校)、田原淳子(国士舘大学)、登坂大樹(筑波大学附属駒場高校)、藤原亮治(筑波大学附属坂戸高校)、宮崎明世(筑波大学)、守屋佐栄(無職)、

【報告書作成者】藤原亮治

【概要】

エストニアで開催された第11回国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムに生徒引率者として参加した藤原氏が演者となり報告した。オリンピック・ムーブメントやオリンピズムの理解を若者にひろげることを目的として開催されているこのフォーラムに、日本は第10回大会(2015年)から、国内で選考された高校生(7名)を派遣している(それまでは選考なしで2名を派遣)。

まず国内の選考対象会が、関東地区（参加校5，参加生徒31名）、中京地区（参加校4，参加生徒23名）、いずれも2泊3日をかけて実施された。講義、ディスカッション、実技試験などを実施され、7名が選考された。

選考された7名は、7月15日（土）～17日（月）に筑波大学附属坂戸高等学校で事前研修を実施した。この研修の目的は、1）オリンピック教育：「クーベルタン賞」をめぐる諸活動を中心にオリビズムの更なる理解に努める、2）国際交流の準備：日本文化の紹介や、海外の高校生との交流に備える、3）チームビルディング：派遣生徒が互いを理解し合い、一つのチームとして機能できるようになる。研修が終了し解散した後は、参加者は必修となっているボランティア活動への参加、そして筆記試験やスポーツテストへ向けての事前学習、トレーニングを各自で取り組んだ。

そして一行は、7月19日にエストニアに到着した。国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラムには23か国24校が参加。初日はイネス会長の「オリンピック史・オリビズム」に関する講義があり、その後市内のスポーツ博物館とタルトゥ市内散策。午後はオープニングセレモニーがあり、国ごとに民族的な衣装と国旗をもって学校に集合した。日本は「浴衣」で登場、自国の文化をアピールした。パラリンピックスポーツの体験ではエストニアのオリンピック・パラリンピアンが招かれ、講師として生徒と共に体を動かした。ミニエキスポは各国文化を味わえるブースを設置するもので、多くの国が食文化を紹介する中で、「独楽」「けん玉」「折り紙」「達磨落とし」といった「遊び」を紹介した日本のブースは人気であった。スポーツテスト、エストニア農業文化博物館を見学、キャンプファイア、ディスカッション、クロスカントリー、そしてスポーツ交流と内容は盛りだくさんである。また3日間かけて行ったワークショップでは各国生徒が9つのワークショップに分かれ、作品作り（協働製作）を行った。英語でのディスカッションや、筆記テストが実施された。

各国生徒の成長を間近に観察していた演者は、このフォーラムは非常に豊かな交流の場であり、生徒の成長とかけがえのない仲間を獲得ができる貴重な経験であると考えている。

### 《2017年10月（通算254回）月例会－「サロン in 東海道品川宿」報告》

【日時】2017年10月20日（金）19：15～20：45 注）「お散歩ツアー」は18：30馬場駅集合

【会場】品川宿交流館 本宿お休み処（品川区北品川2-28-19）

【テーマ】東海道品川宿FCのスポーツを通じたゆたかなくらしづくり、まちづくり  
～フットサルのチカラで、部活動の課題解決に取り組む～

【演者】

竹中茂雄（東海道品川宿FC クラブマネージャー／旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会事務局）  
松村圭佑（東海道品川宿FC 監督）

【参加者（会員・メンバー）7名】安藤裕一（(株)GMSS ヒューマンラボ）、大河原誠二（桐窓サッカー倶楽部）、岸卓巨（日本スポーツ振興センター）、熊谷建志（FC城東）、中塚義実（筑波大学附属高校）、松下徹（公認会計士・税理士）、守屋俊英（世田谷区サッカー協会）

【参加者（未会員・一般）17名】大澤淳（なぎさの会）、萱原雅史（税理士）、河原典仁（中央電力）、岸弘之（FC西巣鴨03）、国島栄市（ビバ！サッカー研究会）、霜島剛（野毛印刷社）、田中姿子（品川区スポーツ協会）、田中義巳（街道文庫）、玉井（まちづくり協議会）、辻和之（東海道品川宿FC）、初野翼（東海道品川宿FC）、堀江新三（まちづくり協議会）、松村竜祐（東海道品川宿FC）、皆川宥子（日本女子大学）、守屋佐栄（無職）、和田フジコ（まちづくり協議会）、渡口（まちづくり協議会）

【参加者（未会員・中学生）3名】

泉田陶汰（東海道品川宿FC）、辻大飛（東海道品川宿FC）、平井柊（東海道品川宿FC）、

【報告書作成者】竹中茂雄

【概要】

今回はいわゆる「おでかけサロン」。「お散歩＝品川宿のまちご案内ツアー」が開始。竹中氏が案内役となり新馬場駅から品川宿交流館まで、途中のお店にも数軒寄らせて頂きながら30分弱かけて散歩。到着した品川宿交流館には、地元町内会の方がすでに集まっている。

まず竹中氏の物語。学生時代の仲間の多くが、上下関係や厳しい練習を理由に「好きなサッカーを辞めている」という事実を知り、なぜなんだ!?!という疑問を持った大学生当時、自らを「チェアマン」と名乗り、「DUOリーグ」なる取り組みをしている高校の先生（编者注、中塚理事長のこと）を発見。さっそく会いに行き、自らの問題意識や、地域活動（自主運営のフットサル大会）について語ったところ、今も竹中氏の行動指針として生き続けるアドバイスをもらう。こうしてサロン2002との交流がはじまり、また多くの学びと経験、紆余曲折を経て、2016年4月、「東海道品川宿FC（一般社団法人 東海道品川宿スポーツクラブ）」を設立し、品川区において本格的なクラブがはじまった。

ホームタウン東海道品川宿には、江戸時代、東海道第一の宿場町として栄えた宿場町としての気質や文化が受け継がれている。情緒あふれる住民がいる一方で、埋め立てた土地には高層マンションが立ち並び子どもたちの人口も増加している。この東京都の中でもユニークな地域で、地元の子どもたち「しながわっこ」（江戸っ子ではない）のために、スポーツを通じてどんなことができるか常に考えてきた竹コーチ、松コーチ二人の熱い思いが、徐々に地元の人達にも受け入れられ、クラブがまちに根付いていく過程を語ってもらった。

東海道品川宿FCに所属する中学生3名も飛び入りで参加、それぞれが素敵な発言を残し、クラブと地域のゆたかな未来を占うものとなった。

## 《2017年11月（通算255回）月例会報告》

【日時】2017年11月24日（金）19：00（終了後は「景宜軒」～23：30）

【会場】筑波大学附属高校（東京都文京区）

【テーマ】TOKYO2020 オリンピック・パラリンピックと漫画の世界

【演者】小林勝海（株式会社漫画家学会）

【参加者（会員・メンバー）9名】安藤裕一（(株)GMSS ヒューマンラボ）、川名紀義（(株)ページー）、岸卓巨（日本スポーツ振興センター）、小山基彰（ヒーローインタビュー）、笹原勉（日揮（株））、鈴木稔（オーシャンズジャパン株式会社）、中塚義実（筑波大学附属高校）、守屋俊秀（世田谷サッカー協会）、吉原尊男、

【参加者（未会員）10名】長伊藤政則（太陽インダストリーアフリカ）、今西智津子（筑波大学附属高校）、江尻章（株式会社漫画家学会）、木所聡（文京区立柳町小学校）、国島栄市（ビバ！サッカー研究会）、小林勝海（株式会社漫画家学会）、中西正紀（(株)古今東西社）、道端寿奈（足立区立舎人小学校）、守屋佐栄（無職）、Alejandro Parra Gaete（Universidad San Sebastian（チリ））

【報告書作成者】守屋俊秀

【概要】

東京都墨田区で職人に囲まれて育った演者小林氏は、会社勤務を経て家業を継ぐも3年後に独立、さらに現在の漫画家学会の前身であるアイ・エフ・ビーという繊維製造卸の会社に就職。同社が、京都精華大学（マンガ学部がある）からの依頼で、漫画家に仕事を創出するための会社（株式会社漫画家学会）を立ち上げたころより漫画業界に関わるようになった。

2009年、同社が「紙芝居師」という職種の正社員を公募したところ、大阪で150人、東京で300人の応募という反響、さらにマスコミに取り上げられたこともある。依頼は増加し、手狭であった渋谷の事

務所から荒川区の熊野前商店街に移転した。荒川区が当事業を観光資源と認めたこと、また当時オリンピック・パラリンピック招致をしていた東京商工会議所荒川支部と知り合い、紙芝居作成の打診・依頼を受けた。作成された紙芝居は、招致委委員会でも評価を受け、同組織はオフィシャル団体となった。招致委員の依頼などで学校を中心に事業を展開した。なお渋谷区では4競技についてオリジナルで紙芝居を作っている。東京パラリンピックの千日前に実施された機運醸成の事業の一つとして、渋谷駅前の憲章ボードで今これが掲載されている。区立の小中、公立の幼稚園、保育園、大体年60回くらい、渋谷区民祭りや区主催事業でも紙芝居を上演している。

2020年の開催国が東京に決定した日の夜、「マンガでオリンピック歓迎事業」を提案いただき、実際に計画を開始した。その柱の一つはマンガコンテストで、予算規模3~5千万、当初の計画通りであれば、現在公募をしている予定であった。しかし資金集めに苦しみ、現時点では資金の目処が立っていない。また自分たちで作ったオリパラの教育教材を日本中の子供たちに配りたいというアイデアもあるが進んでいない。経済的な理由だけで実現できないという事態に小林氏は忸怩たる思いをしているという。

以上の報告の後、2020東京オリパラにまつわり、日本のマンガや紙芝居という文化に関わることのできる可能生に、参加者から、様々な質疑や意見が出た。また資金の調達方法についても、クラウドファンディングの可能性についてなどの意見が出た。

## 《2017年12月（通算256回）月例会報告》

【日時】2017年12月19日（金）19:05~21:00

【会場】筑波大学附属高校3F会議室（終了後は「景宜軒」~23:30）

【テーマ】運動部活動のいま

【演者】嶋崎雅規（国際武道大学）

【参加者（会員・メンバー）10名】安藤裕一（株）GMSS ヒューマンラボ）、岸卓巨（日本スポーツ振興センター）、斎藤芳（桜丘高校サッカー部顧問）、嶋崎雅規（国際武道大学）、白井久明（弁護士）、鈴木稔（オーシャンズジャパン株式会社）、竹中茂雄（東海道品川宿FC）、中塚義実（筑波大学附属高校）、守屋俊英（世田谷区サッカー協会／高校サッカー部）、吉原尊男

【参加者（未会員）12名】池上功、氏家美優（茨城大学学部4年）、慶野順一（国際武道大学OB）、小平健太郎（トレーニングコーチ）、岸弘之（西巣鴨中サッカー部外部指導員）、白井浩司（アスレティックトレーナー／フリーランスでパーソナルトレーナー）、関拓美（パーソナルトレーナー／コンディショニングコーチ）、長尾樹（アスレティックトレーナー／鍼灸師／株T.P.PLACE）、中西正紀（株）古今東西社）、藤原明夫（県立千葉高校）、松並敬（都立豊島高校サッカー部外部指導員）、守屋佐栄（サッカーサポ／帰宅部）

【報告書作成者】久高怜南（国際武道大学）

【概要】

学校運動部活動は、放課後すぐに学校の仲間たちと手軽にスポーツを楽しめる有効なシステムとして、我が国が誇るべきものである。笹川スポーツ財団（2017）によると、2016年現在、中学生の66.5%、高校生の44.2%が運動部活動に参加しているとされている。しかし、そのシステムも限界にきている。

まずは戦前の運動部活動について簡単に触れ、戦後の運動部活動がその時代によって様々な役割を果たしてきたことを振り返った。戦後すぐは民主化教育の手段として、東京オリンピックに向けては競技力の向上を目指して、その後はスポーツの大衆化や生涯スポーツ社会実現のために、運動部活動の役割は変化してきた。その後、運動部活動の現状を明らかにし、現在の運動部活動の問題点を整理した。さらに部活動指導による教師の多忙化の問題、専門性の欠如による実技指導力に対する不安などについて

でも触れた。それを解消するために、外部指導者の導入を促進していることや、部活動指導員を学校職員として位置づけるようになったことを紹介した。

これからの運動部活動は、もっと多様化すべきであることを意見として述べ、その実現を阻んでいる原因についても言及した。最後に、演者の考える「これからの望ましい運動部活動」のあり方を紹介し、まとめとした。

### 《2018年1月（通算257回）月例会報告》

【日 時】2018年1月12日（金）18：30～21：10（終了後は「景宜軒」～23：30）

【会 場】筑波大学附属高校 3F 音楽室

【テーマ】日本と中国のユース年代のスポーツ環境を考えるー中国のサッカー指導者との情報交換会（Sport for Tomorrow 認定事業）

【演 者】中塚義実（筑波大学附属高校）& 牧野さん Kenio Yao（成都市のサッカー会社）

通訳：鈴木稔（オーシャンズジャパン株式会社）

【参加者（会員・メンバー）9名】安藤裕一（株）GMSS ヒューマンラボ）、奥崎覚（Qoly）、岸卓巨（日本スポーツ振興センター）、斎藤芳（桜丘高校）、笹原勉（日揮）、鈴木稔（オーシャンズジャパン株式会社）、張寿山（明治大学）、中塚義実（筑波大学附属高校）、守屋俊英（世田谷サッカー協会）、

【参加者（未会員）3名】本間圭（ルーヴェン高崎 FC）、守屋佐栄（サポ）、国島栄市

【日本サッカーインスペクションツアー参加者（中国側13名。北京・上海・成都など各地から）】

民間の育成を主とするクラブの指導者 3名

学校の先生（校長、教頭） 2名

スポーツマネジメント会社 2名

サッカーメディア 4名 ※大手ではなく、サッカーに特化した APP 系のメディア

オーシャンズスタッフ 2名

【報告書作成者】中塚義実& 鈴木稔

【概要】

今回は、オーシャンズジャパン株式会社と連携して「中国のサッカー指導者との情報交換会」を開催、Sport for Tomorrow 認定事業でもあった。

中国からの一行13名は、北京、上海、成都などそれぞれの地域より日本のサッカー事情視察に来日。Jクラブの指導現場の訪問、全国高校サッカー選手権の観戦などに数日かけた後、最終日に到着したのが筑波大附属高校。体育の授業（5限目のマット運動（1年生女子）、6限目のサッカー（1年生男子）を参観、放課後は部活動（サッカー、テニス、陸上競技、バドミントンなど）を見学した後に月例会となった。

鈴木氏が通訳をしながら中塚氏、牧野氏、Kenio Yao氏がそれぞれ日中の体育ならびにサッカー事情について報告、これに続き情報交換ならびに意見交換がなされた。中国の方たちにとって教育とスポーツが密接に結びついた日本の学校体育や部活動はとても印象的だった様子。中国のスポーツ界でも指導者による暴力があるが、「学ぶ意欲のある指導者たちは暴力を振るわない、これからはそのような良い指導者が増えてくる」という言葉に中国のスポーツの未来を見ることができた。

### 《2018年2月（通算258回）月例会報告》

【日 時】2018年2月20日（火）19：00～21：00（終了後は「景宜軒」～23：30）

【会 場】筑波大学附属高校 3F 会議室

【テーマ】 FC United of Manchester, イングランドのソシオ型スポーツクラブの紹介

ーコミュニティへの貢献を最大の事業目的とするスポーツクラブ

【演者】張 寿山 (明治大学)

【参加者 (会員・メンバー) 11 名】 安藤裕一 (株)GMSS ヒューマンラボ)、岸卓巨 (日本スポーツ振興センター)、木村康子 (株)ミデア、ライター/エディター)、小池靖 (在さいたま市、サッカースポーツ少年団、指導者)、斎藤芳 (桜丘高校)、嶋崎雅規 (国際武道大学)、張寿山 (明治大学)、徳田仁 (株)セリエ)、中塚義実 (筑波大学附属高校)、守屋俊秀 (世田谷区サッカー協会)、吉原尊男

【参加者 (未会員) 6 名】 柏田剛介、福士唯男 (アスリートプランニング)、藤原亮治 (筑波大学附属坂戸高校)、渡邊明志 (筑波大学附属聴覚特別支援学校)、国島栄市、中西正紀 (古今東西社)

【報告書作成者】 守屋俊秀

【概要】

FC United of Manchester(FCUM)は、2005 年に創設され現在ナショナルリーグ・ノース (6 部、日本でいえば関東 2 部に相当) に所属しているクラブです。マンチェスター・ユナイテッドの経営が余りに商業化してしまったことに異議をとなえる古くからのサポーターたちにより、もう一度地域に根ざしたクラブを作り直すという理念の下で創設された。ゼロからスタートして 10 年余りの活動を経て、現在約 2 億円の収入と 3000 人程度の観客数、そして 4400 人収容の新しいホームスタジアムの建設を実現した。今ではサッカーの商業化の最先端を走っているマンチェスター・ユナイテッドから生まれた、商業化とは違うサッカーのあり方を目指しているクラブである。

### 《2018 年 3 月 (通算 259 回) 月例会報告》

【日時】 2018 年 3 月 20 日 (火) 19:00~21:00 (終了後は「景宜軒」~23:30)

【会場】 筑波大学附属高校 体育館大アリーナ&ミーティングルーム

【テーマ】 ドイツ生まれのボール教室「バルシューレ」の展開と可能性

【演者】 福士唯男 ((株)アスリートプランニング バルシューレ事業部)

【コーディネーター】 安藤裕一 ((株)GMSS ヒューマンラボ)

【参加者 (会員・メンバー) 7 名】 安藤裕一 (株)GMSS ヒューマンラボ)、梅本嗣 (会社員)、加納樹里 (中央大学)、岸卓巨 (日本スポーツ振興センター)、中塚義実 (筑波大学附属高校)、守屋俊秀 (世田谷区サッカー協会)、山内直 (浦和レッズ)

【参加者 (未会員) 6 名】 菊地美里 (ヨガインストラクター)、糺正勝 (インタースポーツ)、福士唯男 (アスリートプランニング)、守屋佐栄 (フランス W 杯へ行くぞ、なでしこ)、諸澄孝宜 (理学療法士)、渡邊明志 (筑波大学附属聴覚特別支援学校)

【報告書作成者】 菊地美里

【概要】

前半は体育館で演者の指導のもと参加者がバルシューレを実演。様々な運動要素を取り入れた「ボールを使った運動 (遊び)」を体験した。それぞれ一生懸命にプレー、上手く出来たり出来なかったりするが、時に笑いが飛び交い楽しく汗をかいた。そして後半ではバルシューレの歴史、基本的な理論、日本での活動、そして中国への展開といった内容を、写真などのスライドを交えながら講演が行われた。「遊びは本来子供が見つかるものだが、現代の子供は自分で見つけることが下手なので、バルシューレが遊ぶきっかけになれば良い」という言葉に演者の目指すことの思いが込められていた。

## 2. 公開シンポジウム

2017年8月27日に、「Before2002、After2020 ースポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を目指して」と題して、公開シンポジウムを開催しました。

2002FIFAワールドカップの前からはじまるサロン2002の活動は、2017年で20周年を迎えました。それを記念して、今回のシンポジウムでは、サロンがあゆんだ20年を取り上げ、日本スポーツの現代史と「これから」について、多くの参加者と語りあいました。

2019ラグビー・ワールドカップ、2020東京オリンピック・パラリンピックと、この先に大きなイベントが続きます。2002年のときもそうでしたが、私たちの関心は、2020の先に何を残すかにあります。本シンポジウムの第1部では、Jリーグ発足を契機とする日本スポーツの構造改革、インターネットの普及に象徴される社会環境の変化、そしてグローバル化とローカル化などを切り口として「この20年」の変化を振り返りました。そして第2部で、2019ラグビー・ワールドカップ、2020東京オリンピック・パラリンピックを中心に「これから」につながるさまざまな実践を取り上げました。

シンポジウム終了後は同会場で懇親会を実施、さまざまな立場の方が集い、立場を越えて交流を深める場となりました。

本シンポジウムの内容については、広報誌『遊 ASOBI』創刊号に詳しく掲載されています。

【テーマ】 Before2002、After2020 ースポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を目指してー

【主催】 特定非営利活動法人サロン2002

【賛助団体】 株式会社EN(フットサルショップRODA)、株式会社GMMSヒューマンラボ、  
株式会社シックス

【日時】 2017(平成29)年8月27日(土) 14:00~17:00 (受付13:30~)

【会場】 桐陰会館

【プログラム】

第1部 「この20年」を語るーサロン2002のあゆみとともに

講演1) Jリーグ観客調査から見えるものー「みるスポーツ」の20年  
演者：仲澤 眞(筑波大学)

講演2) ファインダーから見えるものー地域スポーツの20年  
演者：宇都宮 徹尙(写真家・ノンフィクションライター)

講演3) IT技術とスポーツの変遷ーネットメディアの20年  
演者：鈴木 崇正(NECマネジメントパートナー)

講演4) 指導現場から見えるものー「するスポーツ」の20年  
演者：中塚 義実(筑波大学附属高校)

第2部 「これから」を語るー2020を越えて

2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックを主な題材として、サロン会員・メンバー等が数多く登壇し“スポーツを通じたゆたかなくらしづくり”への取り組みを紹介しました。

参加者：75名

【文責：笹原勉】

### 3. 広報紙「游」の作成

スポーツ振興くじ（toto）助成事業の認定を受け、2018年3月に広報誌『游 ASOBI』創刊号を発行しました。創刊号は300部印刷し、国立国会図書館、サロン2002の会員・メンバー、シンポジウム講演・寄稿者の他、「スポーツを通じたゆたかなくらしづくり」に関係する諸団体に配布しました。

誌名『游 ASOBI』は、「生きる」だけでなく、「よりよく生きる」には欠かせない文化であるスポーツやアートの原点にある「あそび」を、ゆらゆらとただようイメージで表したものです。2017年度は創刊号発行にあたり、理事会を中心に内容を検討し、タイトルについてはスポネットメンバーからも幅広く募集しました。



	<h2>2018 APR 創刊号 目次</h2>	
<p>理事長よりご挨拶 ..... 2</p>		
<h3>20周年記念シンポジウム報告</h3>		
<p>はじめに ..... 3</p>		
<p>シンポジウム開催要項 ..... 4</p>		
<p>第1部 「この20年」を語る—サロン2002のあゆみとともに— ..... 6</p>		
<p>「リーグ観客調査から見えるもの—「みるスポーツ」の20年（筑波大学 仲澤 真） ..... 9</p>		
<p>ファインダーから見えるもの—地域スポーツの20年（写真家・カメラマン 宇都宮 徹吉） ..... 13</p>		
<p>インターネットの誕生と拡充—メディアの20年（NEC マネジメントパートナー 鈴木 京正） ..... 16</p>		
<p>指導現場から見えるもの—「するスポーツ」の20年（筑波大学附属高校 中塚 義実） ..... 22</p>		
<p>指定発言者より ..... 27</p>		
<p>第2部 「これから」を語る—2020年を越えて ..... 30</p>		
<p>配布資料 ..... 41</p>		
<p>シンポジウム参加者一覧 ..... 44</p>		
<p>参加者アンケート ..... 45</p>		
<p>シンポジウムにご支援いただいた方々 ..... 45</p>		
<p>寄稿編 ..... 46</p>		
<p>観戦ツアーの20年（株式会社セリエ 徳田 仁） ..... 57</p>		
<p>サッカーをめぐる冒険—新たなビジネスモデルを求めて（日伊協会 湯浅 浩志） ..... 64</p>		
<p>「サロン2002」との出会い、そして2020年以降を見通した強力で持続可能な競技力強化のための支援体制の構築について （スポーツ庁競技スポーツ課課長補佐 川井 寿裕） ..... 53</p>		
<p>プロサッカーもワールドカップ出場も「当たり前」のBefore 20とAfter 20（筑波大学蹴球部 OB 春日大樹） ..... 50</p>		
<h3>私たちの取り組み（年次報告）</h3>		
<p>I. 月例会報告（第245回（2017年1月）—第257回（2018年1月） ..... 63</p>		
<p>II. 各事業の報告</p>		
<p>1. Gavic Cup ユースフットサル選抜トーナメント2017 ..... 87</p>		
<p>2. U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ2017 ..... 90</p>		
<p>3. U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ2018 ..... 96</p>		
<p>4. リサイクルプロジェクト / スキンプロジェクト ..... 99</p>		
<p>5. 「DUO リーグ」事務局（業務受託） ..... 100</p>		
<p>6. SPORT FOR TOMORROW 事業への参加 ..... 101</p>		
<h3>NPO サロン2002 とは</h3>		
<p>公開シンポジウム（2017年1月月例会） ..... 103</p>		
<p>U-18 フットサル（2017年3月月例会） ..... 115</p>		
<p>月例会（2017年5月月例会） ..... 131</p>		
<p>入会案内 ..... 145</p>		

## 4. DUO リーグ事務局業務受託

サロン 2002 では、2016 年 2 月より DUO リーグの事務局および企画部業務を受託しています。DUO リーグは、東京都文京区・豊島区・足立区・中央区の高校運動部を中心としたサッカーリーグで、全国に広がるユースサッカーリーグのモデルとなったリーグです。レベルやニーズに応じて、「歯磨き感覚」「引退なし」「補欠ゼロ」でサッカーが楽しめる環境づくりを目指しています。サロン 2002 理事長の中塚義実が初代チェアマンを務め、DUO リーグの理念や構想にはサロン 2002 の月例会での議論が大きく影響しています。現在は、地区トップリーグへの昇格をかけた前期リーグ戦とピッチのサイズや出場選手数に柔軟性を持たせた後期リーグ戦（フリーサイズフットボールおよびフレキシブルリーグ）が行われ、優勝チームには前述の「リサイクルプロジェクト/スキンプロジェクト」で制作した「履けなくなった靴でできた、履けるトロフィー」が贈られます。2017 年度は前期リーグ優勝チームである学習院高校と後期リーグ優勝チームである本郷高校に贈られました。また、サロン 2002 は、企画部として、各種講習会も企画・実施しています。2017 年度は 7 月 17 日に東京リゾート&スポーツ専門学校及び菅泰夫氏（株式会社ニューレックス）に協力いただき DUO リーグ関係者（プレーヤー・マネージャー・指導者等）を対象とした「栄養学・テーピング講習会」を開催しました。



「栄養学・テーピング講習会」開催



後期 DUO リーグ優勝「本郷高校」

【文責：岸卓巨】

## 5. U-18 リーグチャンピオンズカップ 2018

### 第2回大会を終えて

新年早々の1月6～7日、武田テバオーシャンアリーナには全国各地から、U-18リーグの代表チームが集まりました。Fリーグや地域リーグのトップチームを持つクラブの下部組織、育成年代に特化したフットサルクラブ、学校のフットサル部、あるいはサッカー部の冬のトレーニングとしてフットサルに取り組む高校生…。「いつでも、どこでも、誰とでも」楽しめるフットサルですが、とりわけU-18年代のフットサルには多様なチームやプレーヤーがおり、大きな可能性を感じます。

昨年度の大会を機にU-18リーグの整備は徐々に進み、今大会は10リーグから12チームが参加して開かれました。連盟でも協会でもなく、民間のNPOが主催する大会ですが、「U-18年代のレベルアップ」と「日常的なリーグ環境の整備」という二つのねらいにブレはありません。主催者として改めて責任の重さを感じるとともに、大きなやりがいを感じています。

1次ラウンドからすばらしい試合が続きました。私はおもにメイン会場の試合を見ていたのですが、各チームの個性のぶつかりあいは見ていて楽しいものでした。そして決勝戦は、U-18フットサル史上に残る好ゲームだったと言えるでしょう。優勝したサントスFCU-18の高い個人技と“遊び心” いっぱいのフットサルは、見ているだけで楽しくなります（プレーヤーがもっとも楽しんでいました）。それに対するフウガドルすみだファルコンズも、個々の能力を最大限に引き出す戦術が有効で、いい意味での緊張感に満ちたゲームでした。後半、一瞬のすきを突いたサントスが4-1とリードを広げますが、そこからファルコンズはGKを含めた5人で攻撃を続けます。一つのミスが致命的となる緊張感の中で1点を返し、その後いくつもチャンスを作り、どちらが優勝してもおかしくないゲームでした。このレベルのゲームを、もっと多くの人に見てもらいたいと、強く感じました。

U-20代表監督の鈴木隆二氏が2日目に視察に来られ、この大会の意義を高く評価してくださいました。この年代の底上げが、日本のフットサルのレベルアップにつながります。それは、日常的なリーグ環境の整備と表裏一体です。各地のリーグ環境がよりよいものとなり、U-18リーグが全国各地にできていくことではじめて、この大会が「成功した」と言えるでしょう。そのときまで、totoの助成を受けながら、私たちのNPOはしっかりとこの大会を支え続けてまいります。

主管の愛知県フットサル連盟、後援の愛知県サッカー協会は、同時期に日本フットサル連盟の公式大会が開かれる中、全力で運営にあたってくださいました。また、そのような状況下で審判の手配が追いつかない状況がう生まれましたが、京都府や神奈川県からも派遣していただき、さらに出場チームのユース審判にも活躍してもらいました。自分たち自身で日常的なリーグ環境をつくりあげてきたからこそ、みなで協力し合って運営できたのだと思います。ご協賛各社をはじめ、本大会にご支援、ご尽力くださったすべての方々に感謝と御礼を申し上げます。

同時期に開かれていた全国高校サッカー選手権大会が始まったのは大正7（1918）年。今年が100周年です。U-18年代のフットサルは、ようやく競技会が整備されてきたものの、まだ始まったばかりです。

ここを起点に、各地でU-18年代のフットサル環境が整っていくことを願います。

その担い手となるのは、ここに集った一人ひとりです。

これからもよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人サロン2002  
理事長 中塚 義実

## ■大会概要

### 名称

第2回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ

### 主催

特定非営利活動法人サロン2002

### 主管

愛知県フットサル連盟

### 後援

公益財団法人愛知県サッカー協会

### 協賛

加茂商事株式会社、株式会社ジャパン・スポーツ・プロモーション、京王観光株式会社、多摩大学

### 期日

2018年1月6日(土)、1月7日(日)

### 会場

武田テバオーシャンアリーナ (愛知県)

### 参加資格

1. 一般財団法人日本フットサル連盟に加盟承認された単独チームであること。
2. 第1項に所属する1999年4月2日以降に生まれた選手で男女を問わない。但し、高等学校在学中の選手にはこの年齢制限を適用しない。
3. 当該チームにおいて、2017年度のU-18フットサルリーグに出場している選手であること。

### 参加チーム

参加チームは、次の各号により選出された12チームとする。

1. 地域または都道府県のフットサル連盟が主催、主管または後援して開催される2017年度のU-18フットサルリーグの優勝チーム。
2. 出場チームが12チームに満たない場合は、以下の順で出場チーム枠を設定し、12チームでの開催とする。
  - ① 開催地のリーグ準優勝チーム
  - ② 当該年度のリーグ参加チーム数の多いリーグの準優勝チーム

### 大会形式

1. 1次ラウンド：12チームを4チームずつ3グループに分けてリーグ戦を行い、各グループ1位チーム及び2位のうち成績上位1チームが2次ラウンドへ進出する。順位は、勝点合計の多いチームを上位とする。勝点は、勝ち3、引分け1、負け0とする。ただし、勝点合計が同じ場合は、以下の順序により決定する。
  - ① 当該チーム間の対戦成績
  - ② 当該チーム間の得失点差
  - ③ 当該チーム間の総得点数
  - ④ グループ内での総得失点差
  - ⑤ グループ内での総得点数
  - ⑥ 下記に基づく警告、退場のポイント合計がより少ないチーム

ア) 警告1回	1ポイント
イ) 警告2回による退場1回	3ポイント
ロ) 退場1回	3ポイント
ハ) 警告1回に続く退場1回	4ポイント

  - ⑦ 抽選
2. 1次ラウンドの各グループ2位チームのうち、決勝トーナメントに進出する4チームは、以下の項目の順序で決定する。
  - ① グループ内での勝点合計
  - ② グループ内での得失点差
  - ③ グループ内での総得点数
  - ④ 抽選
3. 2次ラウンド：上位4チームによるノックアウト方式で行う。(3位決定戦は行わない)

### 競技規則

大会実施年度の「フットサル競技規則」による。

### 競技会規定

以下の項目については、本大会で規定する。

1. ピッチ  
原則として、40m×20m
2. ボール  
試合球：フットサル4号ボール
3. 競技者の数  
競技者の数：5名  
交代要員の数：9名
4. チーム役員  
チーム役員：4名以内
5. 競技者の用具
  - ① ユニフォーム  
ア) フィールドプレーヤー、ゴールキーパーともに、色彩が異なり判別しやすい正副のユニフォーム(シャツまたはジャ

ジー、パンツ、ストッキング) を参加申込書に記載し、各試合には正副ともに必ず携行すること。

- イ) チームのユニフォームのうち、シャツまたはジャージーの色彩は審判員が通常着用する黒色と明確に判別しうるものであること。
  - ロ) フィールドプレーヤーとして試合に登録された選手がゴールキーパーに代わる場合、その試合でゴールキーパーが着用するシャツまたはジャージーと同一の色彩および同一のデザインで、かつ自分自身の背番号のついたものを着用すること。
  - ハ) パワープレーを行うチームのフィールドプレーヤーのジャージーまたはシャツは、自チームのゴールキーパーと同一の色、デザインとする。
  - ニ) シャツまたはジャージーには、参加申込書に登録した選手番号を付けること。ショーツにも選手番号を付けることが望ましい。選手番号は服地と明確に区別し得る色彩であり、かつ判別が容易なサイズのものでなければならない。
  - ホ) 選手番号については1から99までの整数とし、0は認めない。1番はゴールキーパーのために用意される。
  - ヘ) ユニフォーム広告表示により生じる会場等への広告掲載料等の経費は、当該チームにて負担することとする。
  - ヘ) ユニフォームの色、選手番号の参加申込締切日以後の変更は認めない。
  - ロ) その他のユニフォームに関する事項については、日本サッカー協会のユニフォーム規程(2016年4月1日施行)に則る。ただし、今回の規程で追加・変更となった内容のうち、一部は2019年3月31日まで旧規程による運用を許容する。
- ② 靴：フットサル用シューズのみ使用可能とする。ただし、本大会会場の利用規定により靴底の接地面が緑色、白色もしくは無色透明以外の色はノンマーケティングシューズであっても使用できない場合がある。
- ③ ビブス：交代要員は、競技者と異なる色のビブスを着用しなければならない。
6. 試合時間  
1次ラウンド：24分間(前後半各12分間)のプレーイングタイムとし、ハーフタイムのインターバルは5分間(前半終了から後半開始まで)とする。  
2次ラウンド：30分間(前後半各15分間)のプレーイングタイムとし、ハーフタイムのインターバルは7分間(前半終了から後半開始まで)とする。
  7. 試合の勝者を決定する方法(試合時間内で勝敗が決しない場合)
    - ① 1次ラウンド：引き分け
    - ② 2次ラウンド：PK方式により次回戦進出チームおよび優勝チームを決定する。PK方式に入る前のインターバルは1分間とする。

### 懲罰

1. 本大会において退場を命じられた選手は、自動的に本大会の次の1試合に出場できない。
2. 本大会期間中に警告の累積が2回に及んだ選手は、自動的に本大会の次の1試合に出場できない。
3. 前項により出場停止処分を受けたとき、1次ラウンド終了時点で警告の累積が1回のととき、または本大会の終了のとき、警告の累積は消滅する。
4. その他、本大会の懲罰に関する事項については、本大会の大会規律委員会が決定する。

### 参加申込

1. 1チームあたり26名(役員6名、選手20名)を上限とし、選手は選出元のリーグに登録していること。
2. 申込み締切日以降の参加申込内容の変更は認めない。

### 電子選手証

各チームの登録選手は、日本サッカー協会発行の電子選手証の写し(写真が登録されたもの：フットサル登録選手)、または選手証(写真が貼付されたもの：サッカー登録選手)を、代表者会議および試合会場に持参すること。電子選手証または選手証が確認できない場合は、試合に出場できない。

### 表彰

優勝、準優勝のチームを表彰する。

### その他

1. チームは、ユニフォームおよび電子選手証を代表者会議に持参する。
2. 参加チームと選手は日本サッカー協会の基本規程および付属する諸規程(ユニフォーム規程等)を厳守しなければならない。
3. 大会規定に違反し、その他不正行為等があった場合は、そのチームの出場を停止する。
4. 試合が一方のチームの責に帰すべき事由により開催不能または中止になった場合、その帰責事由のあるチームは0対5または、その時点のスコアがそれ以上であればそのスコアで敗戦したものとみなす。
5. 本実施要項に記載のない事項については、大会実行委員会にて決定する。

■大会結果

1次ラウンド

2018年1月6日(土) 武田テバオーシャンアリーナ

Aグループ		A1	A2	A3	A4	勝点	得点	失点	得失点	順位
A1	名古屋オーシャンズU-18 (愛知県代表)		5○1	4○1	5○2	9	14	4	10	1
A2	アズヴェール藤沢U-18 (神奈川県代表)	1●5		3●6	4△4	1	8	15	-7	4
A3	京都橘高校 (京都府代表)	1●4	6○3		4○3	6	11	10	1	2
A4	不二越工業高等学校 (富山県代表)	2●5	4△4	3●4		1	9	13	-4	3

Bグループ		B1	B2	B3	B4	勝点	得点	失点	得失点	順位
B1	SANTOS FC18 (愛知県代表)		2△2	12○2	9○0	7	23	4	19	1
B2	フウガドールすみだファルコンズ (東京都代表)	2△2		7○1	12○0	7	21	3	18	2
B3	神戸国際大学附属高校フットサル部 (兵庫県代表)	2●12	1●7		5○3	3	8	22	-14	3
B4	筑北SC WELLNESS (長野県代表)	0●9	0●12	3●5		0	3	26	-23	4

Cグループ		C1	C2	C3	C4	勝点	得点	失点	得失点	順位
C1	HeroFC U18F (静岡県代表)		2○1	2○0	5○2	9	9	3	6	1
C2	FOOTBOZE FUTSAL U-18 (東京都代表)	1●2		5○1	4○1	6	10	4	6	2
C3	アリアンサフットサルクラブ (大阪府代表)	0●2	1●5		3△3	1	4	10	-6	4
C4	エンフレンテ熊本フットサルU-18 (熊本県代表)	2●5	1●4	3△3		1	6	12	-6	3

2次ラウンド

2018年1月7日(日) 武田テバオーシャンアリーナ



【文責: 本多克己】

## 6. クーベルタン・嘉納ユースフォーラム 2017

2018年3月10日(土)～11日(日)、筑波大学附属高校敷地内の「桐陰会館」にて、東京都高体連研究部と特定非営利活動法人サロン2002の共催で「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2017」が開かれた。これは、2年に一度、世界各国の「クーベルタンスクール」が集まる「国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム(国際YF)」の国内版であり、今回初めて高等学校体育連盟が関わる形で開催された。2020年以降にいかにつなげていくかを意図した連携であり、これまでもNPO法人サロン2002がCOREなどと連携しながら進めてきたものをさらに高体連に広げていこうという願いがあった。

対象は東京都内の高校生で、これまでの国内YF参加校と、東京都高体連研究部常任委員の勤務校を中心に募集をかけた。卒業式や学年末試験との重なりがあり、全日程参加を条件とするのは困難であり、プログラムごとの参加形態をとった(以下は「実施要項」より引用)。

### 【目的】

1. 2020年へ向けて高体連加盟校の生徒・教員が、1) オリンピック・ムーブメントやオリンピズムを理解し、2) 学校や競技種目を越えて人的交流をはかる。
2. 2020年以降も高校生対象の国内ユースフォーラムを続けていくための組織づくりに貢献する。<sup>注1)</sup>

【主催】 東京都高等学校体育連盟研究部(東京都高体連研究部)<sup>注2)</sup>

特定非営利活動法人サロン2002(NPO法人サロン2002)<sup>注3)</sup>

【協力】 筑波大学オリンピック教育プラットフォーム(CORE)<sup>注4)</sup>

【期日】 2018年3月10日(土)～11日(日)

【会場】 桐陰会館

〒112-0012 東京都文京区大塚1-9-1 筑波大学附属中学・高校 敷地内

【参加者】 高校生30～40名および引率教諭(高校生は各校7名以内)

注) 原則として、東京都高体連研究部常任委員および全国高体連研究部活性化委員の勤務校およびこれまで「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム」に参加した学校から募集する。

### 【プログラムとスケジュール概要】

#### ◆3月10日(土)

12:30～13:00 受付

13:00～13:50 オリエンテーション

14:00～15:30 講義①TOKYO2020 ボランティアとしてのグローバルマナーとおもてなしの心<sup>注5)</sup>

15:40～17:00 討議 「オリンピズム」関連<sup>注6)</sup>

17:00 解散

#### ◆3月11日(日)

8:30～9:00 受付

9:00～10:30 講義② クーベルタンと嘉納治五郎<sup>注7)</sup>

10:40～12:10 演習 OVEP(Olympic Value Education Programm)を用いたグループワーク<sup>注8)</sup>

12:10～13:00 昼食・休憩

13:00～15:00 実技 ボッチャ<sup>注9)</sup>

15:00～15:30 クロージング

15:30 解散

【参加手続き】「参加者名簿」を用いて各学校で取りまとめる(校長印必要)

【参加費】 無料

【問い合わせ先】

筑波大学附属高等学校 中塚義実(NPO法人サロン2002理事長/全国高体連研究部活性化委員長)

< 注 一 覧 >

注1) 近代オリンピックの創始者の名を冠した「国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム (YF)」が、CIPC (国際ピエール・ド・クーベルタン委員会) 主催で2年に一度、開かれている。世界中から100名以上の高校生が集い、座学や討議、スポーツ交流やアート活動を通してオリビズムを学ぶ機会である。日本からは2009年に生徒2名がオブザーバー参加して以来、毎回参加。2015年からは7名のフルメンバーが認められ、参加者選考を兼ねた「国内YF」が、COREやNPOサロン、JOA (日本オリンピックアカデミー) 主催で開かれるようになった。このムーブメントを全国に広げ、2020年以降につなげていくためにも、さまざまな機関の連携が不可欠である。国内完結型のYFを高体連主催で開催し、「続けていくための組織づくりに貢献する」ことを目的の一つとした。



注2) 東京都高体連に加盟する専門部の一つ。都内の高校運動部についての研究を推進するとともに、毎年「東京都高体連研究大会」を主催し、部活動の今後のあり方やオリビズムについての普及・啓蒙をはかる。全国高体連研究部では同様に全国研究大会を開催。今年1月で第52回となった。

注3) スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を“志”に掲げるNPO法人。その前身は1980年代のサッカー関係者の研究会にあり、1997年からサロン2002の名称で活動開始。月例会は今年2月で258回を数える。2014年度にNPO法人化。オリパラ教育事業やU-18フットサル事業などに積極的に関わる。

注4) 嘉納治五郎生誕150年の2010年に発足した筑波大学の学内組織で、日本初のOSC (Olympic Study Center) としてIOC (国際オリンピック委員会) から認定を受ける。11校ある附属学校を活かしながらオリパラ事業に先駆的に取り組み、スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業」をリードする。

注5) 講義①「TOKYO2020ボランティアとしてのグローバルマナーとおもてなしの心」の講師は、筑波大学客員教授の江上いずみ氏。東京都オリンピック・パラリンピック教育「夢未来プロジェクト」におけるマナー講座担当講師。全国の小中高等学校で「おもてなしの心」をテーマに講演中。

<https://ocw.tsukuba.ac.jp/lecturer/%E6%B1%9F%E4%B8%8A%E3%81%84%E3%81%9A%E3%81%BF/>

注6) 日本語による討議。テーマは「オリビズム」に関係するもので、当日お伝えする。

注7) 講義②「クーベルタンと嘉納治五郎」の講師は、筑波大学体育専門学群長でCORE事務局長の真田久氏。2月17日の東京都高体連研究大会でもご講演いただいた。

<http://www.taiiku.tsukuba.ac.jp/common-data/prof.php?ug&view=42>

注8) 演習「OVEP (Olympic Value Education Programm) を用いたグループワーク」のファシリテーターは、筑波大学体育系助教の大林太朗氏。CORE設立時から事務局を担当。

<http://www.trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000004018>

注9) 実技「ボッチャ」の講師は、筑波大学体育系教授の松原豊氏。筑波大学附属桐が丘特別支援学校から、こども教育宝仙大学を経て、2017年11月に筑波大学着任。アダプテッド体育・スポーツ学研究と実践における第一人者。パラリンピック種目「ボッチャ」を、桐陰会館内で体験する。

<http://hosen.ac.jp/kodomo/teacher2016/matsubara.html>



ケーブルタン・嘉納ユースフォーラム2017 参加生徒							
							2018.3.11.
学校名	3月10日(土)			3月11日(日)			
	13:00 ~13:50	14:00 ~15:30	15:40 ~17:00	9:00 ~10:30	10:40 ~12:10	13:00 ~15:00	15:00 ~15:30
	オリエンテーション	講義①	討議	講義②	演習	実技	クロージング
筑波大附	4	4	3	4	4	3	3
筑波大附駒場	4	4	4	4	4	4	4
帝京	10	10	10	4	4	4	4
都松原	8	8	8	7	7	7	7
都立川	2	2	2	5	0	5	5
都清瀬	0	4	4	0	0	0	0
都東村山	0	0	0	2	2	2	2
日本学園	0	0	0	5	5	5	5
計	28	32	31	31	26	30	30

ケーブルタン・嘉納ユースフォーラム2017 参加スタッフ									
							2018.3.11.		
所属	学校名など	担当教師	3月10日(土)			3月11日(日)			
			13:00 ~13:50	14:00 ~15:30	15:40 ~17:00	9:00 ~10:30	10:40 ~12:10	13:00 ~15:00	15:00 ~15:30
			オリエンテーション	講義①	討議	講義②	演習	実技	クロージング
NPO法人 サロン2002	筑波大附	中塚 義実	1	1	1	1	0	1	1
	国際武道大	嶋崎雅規	1	1	1	1	1	1	1
	会社員	小池 靖	1	1	1	1	1	1	1
全国高体連 研究部	都立松原	塩田伸隆	1	1	1	1	1	1	1
	千葉県立船橋	南部 健	0	0	0	1	1	1	1
引率教諭 or 東京都高体連 研究部	筑波大附駒場	登坂 大樹	1	1	1	1	1	1	1
	帝京	古谷 由紀	1	1	1	0	0	0	0
	帝京	本田 梨紗	0	0	0	1	1	1	1
	都立川	田中 康之	1	1	0	1	0	1	1
	都立清瀬	鞠子 智秋	0	1	0	0	0	0	0
	都立東村山	阿部 一臣	0	0	0	1	1	1	1
日本学園	堀越 和彦	0	0	0	1	1	1	1	
計			7	8	6	10	8	10	10

#### 【総括および今後の展望】

- ・参加生徒・教員からの評価はすこぶる高かった。「オリパラ教育」は東京都内のすべての学校で実施されているはずだが、いまだ手探りの状態である。「このようなことならぜひやってみたい」「今後も参加したい」の希望が強かった。
- ・同時期に中京大学で開かれた「第5回 JOA ユースセッション」は高校生の参加が5名だった。
- ・高体連の事業、各学校では学校教育活動と位置付けてもらうための手続きが大変であった。今後、本事業を学校教育活動として展開していくのか、それとも民間主導としていくのか、検討が必要。
- ・国際 YF 主催の「国際ピエール・ド・ケーブルタン委員会 (CIPC)」の国内組織として「日本ピエール・ド・ケーブルタン委員会 (CJPC)」が法人格を取得して発足する見込。こうした動きを踏まえつつ、2020年以降につなげていくためにも、高体連の組織力をもっと活かしていきたい！
- ・次回の国際 YF は2019年8月にフランスで開催。派遣生徒の選考を兼ねて「ケーブルタン-嘉納ユースフォーラム2018」を2018年中に開催予定。

【文責：中塚義実】

## 7. アート&リサイクルプロジェクト

サロン 2002 では、履き潰されたサッカーシューズや使えなくなったサッカーボールの「革」を活用して、コインケースやキーケース、サンダルなどを制作する「リサイクルプロジェクト/スキンプロジェクト」を実施しています。この活動は、サロン 2002 が事務局業務を受託しているユースサッカーリーグ「DUO リーグ」で、「巨大靴型トロフィー」を製作したことに端を発するものです。2017 年度は、7月 30 日に豊島区主催オリパラ気運醸成事業「東京 2020、その未来（さき）の地域（まち）づくり展」にてコインケースづくりワークショップを実施しました。

2017 年 7 月 30 日(日)

豊島区主催オリパラ気運醸成事業「東京 2020、その未来（さき）の地域（まち）づくり展」にてコインケースづくりワークショップ実施（講師：佐藤いちろう氏、小澤圭史氏）

ワークショップは、スポーツを通じた国際貢献事業「スポーツ・フォー・トゥモロー（SFT）」ブースの 1 つのコーナーとして実施しました。豊島区役所 1 階フロアに設置されたイベントスペースに、アシックス・明治・JTB などオリパラスポンサーのブースが並ぶ中、SFT ブースではスポーツを通じた途上国支援の紹介をテーマに、「中古スポーツ用具の回収」「途上国で実施したスポーツイベントの紹介」と合わせて、「サッカーボールの革でコインケースを作るワークショップ」を実施しました。

豊島区役所が人通りの少ない場所にあることや今回のイベントについては区内小中学校・競技団体にチラシが配布されたものの十分に告知されていなかったことからイベント参加者は 2 日間合わせて 500～700 人程度でした。しかし、その中で、サロン 2002 のワークショップには子どもから大人まで 30 名以上の方が参加してくれました。



【文責：岸卓巨】

## 8. Sport for Tomorrow 事業への参加

SPORT FOR TOMORROW（以下、SFT）は、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会を東京に招致する際、IOC総会において安部晋三首相が発表したことをきっかけに始まった日本政府が推進する国際交流事業です。2014年から2020年までの7年間で、開発途上国をはじめとする100カ国以上・1000万人以上を対象としたあらゆる世代の人々にスポーツの価値を広げることを目指しています。サロン2002は、SFTのムーブメントを推進する官民連携のネットワーク「スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム」（会員団体数378団体（2018年1月末現在））に会員団体として加盟しています。そして、国籍や年齢・性別などが異なる人でも一緒に楽しくボールを蹴ることを目的にした「Non-Border Football」の実施や、外務省が主導するソマリア難民キャンプへのサッカー用具寄贈への協力などを通して、スポーツを通じた国際協力・国際交流を行ってきました。2017年度は、7月に実施された「SFT全体会議」や12月に実施された「SFT会員交流会」に参加した他、同じくSFTC会員団体である「オーシャンズジャパン株式会社」と連携し、2018年1月に中国のサッカー指導者との情報交換会（1月月例会）を実施しました。



SFTC 認定事業：中国のサッカー指導者との情報交換会（1月月例会）

中国の方たちにとって教育とスポーツが密接に結びついた日本の学校体育や部活動はとても印象的だったようです。月例会後は、お馴染みの中華屋へ。最後まで大盛り上がりでした。

【文責：岸卓巨】

## 9. 事務局報告

### 1. 2017年度NPO法人サロン2002会員・スポネットサロンメンバー数

NPO法人サロン2002会員数	32名
スポネットサロン2002メンバー数	69名

### 2. 2017年度役員・事務局

理事長	中塚義実
副理事長	笹原勉
理事	安藤裕一、嶋崎雅規、本多克己、松下徹、関谷綾子、竹中茂雄
監事	茅野英一
事務局	岸卓巨、遠山遼

### 3. 事業内容

	事業内容
通年	ネットワーク会員の募集、ホームページ・メーリングリストの運営、会員名簿の作成、ユースサッカーリーグ「DUOリーグ」からの業務受託
4月	4月月例会「マーケティングの観点から見た2019年ラグビーワールドカップ組み合わせ試案」
5月	5月月例会「NPOサロンの事業を考える③-月例会」
6月	2017年度サロン2002総会・意見交換会
7月	7月月例会「お宝映像上映会-いわゆる「ドーハの悲劇」と「ジョホールバルの歓喜」スキンプロジェクトワークショップ開催（豊島区オリパライベント）
8月	公開シンポジウム「Before 2002, After 2020」
9月	9月月例会「エストニアへ行ってきました」
10月	10月月例会「東海道品川宿FCのスポーツを通じたゆたかなくらしづくり、まちづくり～フットサルのチカラで、部活動の課題解決に取り組む～」
11月	11月月例会「TOKYO2020オリンピック・パラリンピックと漫画の世界」
12月	12月月例会「運動部活動のいま」
1月	1月月例会「日本と中国のユース年代のスポーツ環境を考えるー中国のサッカー指導者との情報交換会」 「U-18リーグチャンピオンズカップ2018」開催
2月	2月月例会「FC United of Manchester, イングランドのソシオ型スポーツクラブの紹介ーコミュニティへの貢献を最大の事業目的とするスポーツクラブ」
3月	3月月例会「ドイツ生まれのボール教室「バルシューレ」の展開と可能性」 「クーベルタン・嘉納ユースフォーラム2017」共催 広報誌「遊 ASOBI」2018.4創刊号の発行、配布

【文責：岸卓巨】

## この一年を振り返って

2017年度は、スポーツ振興くじ（toto）助成対象事業として、従来から助成を受けていたU-18フットサル大会の開催に加えて、広報誌によるスポーツ情報の発信を新たに行うことができました。

広報誌『遊 ASOBI』の発行は、月例会やシンポジウムをはじめとする活動の成果を、広く社会にフィードバックするという、サロン2002の事業実施方針に合致した事業です。2017年度は、対象経費が助成基準額を下回ったため金銭的な助成は受けられませんでしたでしたが、2018年度も助成認定を受けることができましたので、助成のメリットを活かし、「スポーツを通したゆたかなくらしづくり」実現のために、より内容を充実させながら継続していきたいと思えます。

サロン2002は日常的なリーグ環境の整備と、U-18世代フットサルのレベルアップを狙いとする活動を長年続けてきています。第2回を迎える2017年度の大会では、参加チームも増え、ユース年代のフットサルプレーヤーの新たな目標になりつつあります。サロン2002としても予算規模の大きな事業ですので、会員・メンバー全員が主催者の誇りを持てるよう、今年度も素晴らしい大会を作り上げましょう。

2017年度の月例会は、テーマに偏りがなく、様々な分野での発表と意見交換が行われました。スポーツを様々な視点からとらえるサロン2002ならではの、ユニークなテーマが多かったです。

2017年度の公開シンポジウムは、サロン2002 20周年記念と銘打って開催しました。テーマは「Before2002、After2020 ースポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を目指してー」。シンポジウムには75名の参加者が集まり、日本スポーツの現代史と「これから」について語りあいました。

その他の活動の中で特筆すべきものに、「スポーツ・フォー・トゥモロー(SFT)」とのコラボレーションがあります。SFTは、日本政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業です。サロン2002は、SFTコンソーシアムに2016年1月から加盟しています。2018年1月に、SFTコンソーシアム会員団体である「オーシャンズジャパン株式会社」と連携し、中国のサッカー指導者との情報交換会（1月月例会）を実施しました。中国各地からの参加した13名が、サロン側12名と月例会、懇親会の場で交流したこの会は、サロン20年の歴史の中でも、本格的な国際交流の第1歩と言えるかもしれません。

以上のように、2017年度、サロン2002は活動領域を広げてきました。最後に、運営上の課題を2点提起したいと思います。1点目は、活動成果の社会へのフィードバックです。サロン2002では活動内容を社会一般に広めるべく、ホームページの開設、メンバーへのML送信、2017年度に創刊した広報誌の発行などを行っています。しかしながら、発信した内容がどれほど多くの方に伝わっているかの検証が行われていません。検証によってPDCAサイクルを回し、活動の成果をより広く社会にフィードバックすることが必要です。2点目はネットワークの拡充です。サロン2002の基盤は、スポネットサロンのメンバーを中心とした人的ネットワークですが、このメンバー数が期待ほど増加していません。また中心的な活動である月例会、公開シンポジウムの参加者数も同様です。メンバーになるモチベーションや帰属意識を高め、多くの方がイベントに参加するにはどうしたらよいか、皆で議論して、実行したいと思います。

特定非営利活動法人サロン2002

副理事長 笹原勉